

# REPORT 2017

2017年度活動報告書

世界自然遺産  
知床を未来へ

皆様からのご支援が、  
知床の自然保護活動を  
支えています。



知床財団

SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

# Contents

2017年度年次報告に寄せて  
2017年度の決算概要  
2017年度の賛助会員の状況  
2017年度の寄附状況

## 【公益事業】普及啓発事業

### 環境教育

地域向け環境教育  
地域向け講座・イベント  
学習教材開発・運用  
就業体験の受け入れ

### 広報、寄附・支援者の拡大推進

情報発信・サポーター拡大  
ボランティア活動の推進

## 【公益事業】調査研究・野生動物管理事業

### ヒグマの調査・対策

知床国立公園における野生動物との共生推進業務  
斜里町ヒグマ管理対策業務  
羅臼町ヒグマ管理対策業務  
幌別-岩尾別地区におけるヒグマの生態などに関する調査業務  
知床の暮らしと生き物を守る電気柵導入試験業務  
ルシャ地区におけるヒグマの生態などに関する調査業務

### エゾシカの調査・対策

エゾシカ生息密度操作関係業務  
エゾシカ航空カウント調査業務  
エゾシカの採食による植生への影響調査業務  
ルシャ地区エゾシカ季節移動など調査  
エゾシカ個体群の動態に関する調査業務  
網走市エゾシカ生息状況調査

### 会議運営

科学委員会運営業務

### その他

サケ科魚類遡上状況調査業務  
知床半島浅海域生物相調査業務  
斜里町自然環境対策業務  
羅臼町自然環境対策業務  
希少鳥類などの長期モニタリング  
海生哺乳類モニタリング  
水域における生物群集モニタリング  
知床半島におけるヒグマ捕獲情報の収集  
学術的な交流と成果発表  
JBN業務

## 【公益事業】国立公園管理事業

### 施設の管理・運営

知床自然センター  
知床自然教育研修所  
羅臼ビジターセンター  
羅臼研究支援センター  
知床五湖園地  
ルサフィールドハウス

### 知床国立公園利用の適正化

カムイワッカ地区の運営  
知床五湖などの利用適正化の検討  
知床エコツーリズム総合推進事業  
ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務  
知床半島先端部地区 適正利用の啓発及び利用のあり方検討業務  
大雪高原温泉ヒグマ対処法普及啓発業務

## 【公益事業】森林再生系事業

### しれとこ100平方メートル運動

しれとこ100平方メートル運動地における森林再生業務  
しれとこ100平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業

## 【第2期ダイキン工業株式会社寄附事業】

多様性に富むしれとこの森を復元する事業  
世界遺産の価値を守り、伝える事業

## 【収益事業】

販売・有償貸し出し業務  
研修実習受入業務

## 【法人会計】

財団法人管理運営業務

## 【受託事業一覧】

## 【組織概要】



本文中にあるマークは、寄附金・賛助会費によって実施している事業であることを示しています。

受託している事業の「受託先」と「事業名」は57ページに一覧を掲載しています。

# 知床半島マップ



## 知床自然センター

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町宇岩宇別531番地  
TEL0152-24-2114 FAX0152-24-2115  
<http://center.shiretoko.or.jp/>



## 羅臼ビジターセンター

〒086-1822 北海道日梨郡羅臼町湯ノ沢町6-27  
TEL0153-87-2828 FAX0153-87-2876  
<http://rausu-vc.jp/>



### ■知床財団の使命

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、  
世界遺産知床の自然を守り、より良い形で次世代に引き継いでいきます。  
野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、  
人間が自然と親しみ調和していける社会の発展に寄与します。

# 2017年度年次報告に寄せて

公益財団法人 知床財団 理事長 村田良介



近年、北海道では秋サケ漁の低迷が続いています  
が、2017年度は知床でも記録的な不漁となりました。  
気候変動や海水温の変化など様々な要因が指摘され  
ていますが、私たちは以前にも増して注意深く海か  
らの警鐘に耳を傾けていかななくてはならないと認識  
を新たにした一年でした。

自然復元に係る分野では、知床財団が現地業務を  
担う斜里町主催の「しれとこ100平方メートル運動」  
が開始から40年、生き物たちの営みや原生の森の復  
元を視野に入れた新しいステージ「100平方メート  
ル運動の森・トラスト」として展開を始めてから20  
年を迎えました。これまでの20年間の活動を総括す  
るとともに次の20年間の目標や計画を立案、新たな  
スタートへの準備の年となりました。

野生動物管理部門では、ヒグマの目撃件数が過去  
3番目に多い大量出没の年となり、現場の職員が対  
応に追われる状況が続きました。また、近隣の市町  
村からヒグマ対策について相談を受ける機会が格段  
に増え、私たちが長く試行錯誤しながら実践してき  
た野生動物管理事業が知床という枠を超えて広がり  
つつあることを実感する年でもありました。知床半  
島東側の基部を占める標津町とは野生動物の保護管  
理、調査・研究等に関して連携を進めていく協定が

4月に結ばれ、半島全体の一体的な管理体制の構築  
に向けた一歩を踏み出しています。

斜里町と協働で進めている知床自然センターの  
改修工事は2年目を迎え、今年度は映像ホールがリ  
ニューアルされました。座席は十分な空間を取っ  
てゆったりとしたものに一新、内装も黒を基調とし  
たラグジュアリーな空間へと生まれ変わりました。更  
に、過去29年間上映し続けてきた「四季・知床」の  
後継作品の製作がスタート、リニューアルのゴール  
が徐々に見え始めています。

羅臼ではルサ地区で森づくりが始まりました。こ  
れは当財団の元副理事長辻中氏からの寄附がきっか  
けとなって始まったものであり、地元の声を具現化  
する取り組みとして、3者協定を結んだ環境省、羅  
臼町と共に鋭意継続していかなければなりません。

2017年度も多くの個人、企業の皆様からご支援を  
いただきました。この場をお借りしまして深く御礼  
申し上げます。知床財団は世界自然遺産・知床の生  
物多様性や生態系を保全し、より多くの方にその魅  
力を楽しんでいただけるよう、これからも努力して  
まいります。引き続きご理解とご支援を賜りますよ  
う、お願い申し上げます。

## 村田 良介 Ryosuke Murata

石川県小松市に生まれ、愛知県で育つ。1980年から斜  
里町教育委員会で社会教育主事や知床博物館学芸員とし  
て勤務。02年から環境保全課で「しれとこ100平方メ  
ートル運動」、世界自然遺産登録、知床五湖の利用調整地  
区制度導入などを担当。総務環境部長を経て11年に教育  
長に就任し、現在2期目。プライベートでも登山や山ス  
キー、沢登り、カヌーで知床を駆け巡り、自然や歴史の  
魅力を発信している。

### 〔歴代理事長及び任期〕

藤重千秋 (1988年9月23日～1997年9月23日)  
法量 武 (1997年9月24日～2003年3月31日)  
森 信也 (2003年4月1日～2009年3月31日)  
関根郁雄 (2009年4月1日～2016年6月10日)  
村田良介 (2016年6月11日～)

# 2017年度の決算概要

## 2017年度の総事業費は、3億690万円

知床財団の事業費は「独自事業」、「斜里町・羅臼町委託事業」、「その他委託／請負事業」の大きく3つに分類されます。中でも、独自事業は賛助会費や寄附金が重要な財源となっています。賛助会員をはじめとする多くの方々の継続的なご支援により、2017年度は全60事業を行いました。

### 1. 独自事業

(事業数27 事業費4千610万円)

賛助会費や寄附金の他、知床自然センターおよび羅臼ビジターセンターでの販売物収入が主な財源となっています。

### 2. 斜里町・羅臼町委託事業

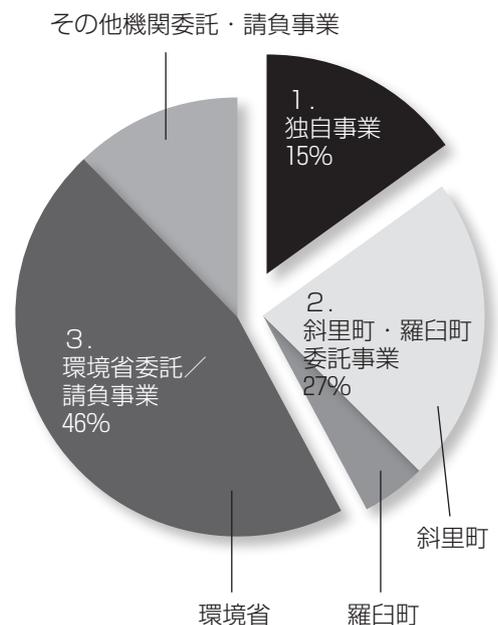
(事業数8 事業費8千360万円)

斜里町からは知床自然センターや知床自然教育研修所などの指定管理業務やしれとこ100平方メートル運動の現地業務など、羅臼町からは羅臼ビジターセンターの運営業務を受託しました。また両町からヒグマ管理対策業務、自然環境保護管理対策業務をそれぞれ受託しました。

### 3. その他委託／請負事業

(事業数25 事業費1億7千720万円)

環境省や林野庁、その他機関から各種業務を受託しました。



## 2017年度の決算報告

科 目	金 額	科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部		2. 経常外増減の部	
1. 経常増減の部		(1)経常外収益	
(1)経常収益		経常外収益計	0
基本財産運用益	4,500	(2)経常外費用	
事業費収益	260,806,276	経常外費用計	161,352
寄附金	14,135,017	当期経常外増減額	▲ 161,352
普及研修収益	29,163,569	当期一般正味財産増減額	▲ 2,359,267
その他の事業収益	227,445	一般正味財産期首残高	80,174,151
雑収益	2,558,765	一般正味財産期末残高	77,814,884
経常収益計	306,895,572	II 指定正味財産増減の部	
(2)経常費用		受取指定寄附金	6,800,000
事業費	306,320,280	一般正味財産への振替額	▲ 4,300,000
管理費	2,773,207	当期指定正味財産増減額	2,500,000
経常費用計	309,093,487	指定正味財産期首残高	48,950,000
当期経常増減額	▲ 2,197,915	指定正味財産期末残高	51,450,000
		III 正味財産期末残高	129,264,884

web <https://www.shiretoko.or.jp/about/outline/teikan>

# 2017年度の賛助会員の状況

知床財団の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆様を支えられています。2017年度は新たに135名、8法人の皆様にご入会いただきました。皆様の温かいご支援に対し、心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

なお、知床財団への会費は、所得税、住民税、および相続税における優遇措置を受ける対象となります。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。

URL <https://www.shiretoko.or.jp/supporter/zei/>

## (1) 2017年度の会員数

個人年会員	個人終身会員	法人年会員	法人特別年会員
667名	1,068名	44団体	11団体

## (2) 新規入会

個人年会員126名、個人終身会員9名、法人特別年会員3法人、法人年会員5法人の入会がありました。私たちの活動をご支援いただき、深く感謝申し上げます。

(以下、敬称略)

法人年会員	所在地
ゴジラ岩観光	北海道
有限会社 川上水産	北海道
大森ペット霊堂	東京都
斜里バス 株式会社	北海道
ワイエスインターナショナル 株式会社	東京都

法人特別年会員	所在地
株式会社 中田建機	北海道
日本グッドイヤー 株式会社	東京都
株式会社 スタンフット	東京都

# 2017年度の賛助会員の状況

## (3) 法人特別年会員 (入会順)

法人名	所在地
商船三井フェリー株式会社	東京都
光和メディカルクリニックヘルスケアセンター	東京都
ナチュラル株式会社	福岡県
富士化学工業株式会社	北海道
株式会社 四ツ葉トレイド	福岡県
株式会社 キタムラ	神奈川県

法人名	所在地
株式会社 プリズム	北海道
有限会社 アウトバック	岩手県
【新】株式会社 中田建機	北海道
【新】日本グッドイヤー株式会社	東京都
【新】株式会社 スタンフット	東京都

※【新】は2017年度の新規入会法人

## (4) 法人会員一覧 (入会順)

法人名	所在地
株式会社 知床グランドホテル	北海道
オリジナル設計株式会社	北海道
株式会社 ユートピア知床	北海道
株式会社 須田製版 釧路支店	北海道
知床オブショナルツアーズSOT!	北海道
有限会社 みさき水産	北海道
有限会社 赤岩水産	北海道
羅臼漁業協同組合	北海道
ウトロ漁業協同組合	北海道
オコツク漁業生産組合	北海道
株式会社 辻中商店	北海道
有限会社 木切別漁業	北海道
峯浜水産有限会社	北海道
有限会社 知床ネイチャークルーズ	北海道
有限会社 らうす第一ホテル	北海道
株式会社 秀岳荘	北海道
株式会社 フェニックス	東京都
小川建設株式会社	北海道
株式会社 大石アンドアソシエイツ	東京都
ピックス株式会社	北海道
田島公認会計士事務所	東京都
サージミヤワキ 株式会社 札幌営業所	北海道

法人名	所在地
株式会社 小柳中央堂	北海道
小野建設工業株式会社	北海道
有限会社 丸大阿部商店	北海道
株式会社 ケミクル	北海道
シティ環境株式会社	北海道
知床ガイド協議会	北海道
CSE G株式会社	東京都
ファームエイジ株式会社	北海道
羅臼石油株式会社	北海道
医療法人社団鶴翔会 つるい整形外科	東京都
土橋工業株式会社	北海道
株式会社 丸七高橋組	北海道
株式会社 あらい	福岡県
安田商事株式会社	北海道
株式会社 ふれあい	北海道
オフィスぐり	北海道
エース株式会社	東京都
【新】ゴジラ岩観光	北海道
【新】有限会社 川上水産	北海道
【新】大森ペット霊堂	東京都
【新】斜里バス株式会社	北海道
【新】ワイエスインターナショナル株式会社	東京都

※【新】は2017年度の新規入会法人

# 2017年度の寄附状況

一般寄附としてお寄せいただいた件数は80件、総額2,942,500円にのびりました（個人の方からは70件、法人からは10件）。内、日本グッドイヤー株式会社様から知床財団所有の全車両11台分の冬タイヤをご寄贈いただきました。寄附の用途を特定する指定寄附としてお寄せいただいた件数は5件（すべて法人）、総額6,800,000円のご寄附をいただきました。ご支援いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

## （1）一般寄附をいただいた法人

法人名	金額(円)
手作りクレヨン工房 Tuna-kai	7,800
有限会社 アウトバック	10,000
株式会社 フェニックス	369,244
株式会社 ユートピア知床	3,821
アサヒビール株式会社	100,000
知床オプションルーツアーズSOT!	30,000
Photograph albireo	3,000
株式会社 北日本新聞社	50,000
日本グッドイヤー株式会社	冬タイヤ11台分



▲日本グッドイヤー様から寄贈いただいたタイヤは、私たちの日々の業務に欠かせないアイテム。

## （2）指定寄附をいただいた法人

### 【ダイキン工業株式会社 寄附額：5,000,000円】

ダイキン工業株式会社様より平成28年から8年間で総額4千万円のご寄附をいただき協定を締結しました。協定に基づき以下2つの事業を実施しました。

- ・「多様性に富むしれとこの森を復元する」事業（P50参照）
- ・「世界遺産の価値を守り、伝える」事業（P51参照）

### 【有限会社アウトバック 寄附額：400,000円】

有限会社アウトバック様より、人とヒグマとの共生を進めるための事業に対し、ご支援をいただきました。

### 【三菱UFJニコス株式会社（公益社団法人日本ユネスコ協会連盟） 寄附額：100,000円】

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟様を通じて、三菱UFJニコス株式会社様より自然環境保護・保全に係る普及啓発事業に対し、ご支援をいただきました。

### 【株式会社辻中商店 寄附額：300,000円】

株式会社辻中商店様より、羅臼町内知床国立公園のルサ園地の環境保全および整備に対し、ご支援をいただきました。

### 【斜里町内の企業（匿名希望） 寄附額：1,000,000円】

斜里町内の企業様より、知床世界自然遺産の環境保全とその普及啓発活動に対し、ご支援をいただきました。

## 環境教育

### 地域向け環境教育

#### 斜里町

知床ウトロ学校全児童・生徒を対象に、ヒグマの生態やヒグマに出会わない方法、出会ってしまった時の対処法を学ぶクマ授業を実施しました。クマ授業は2000年から毎年職員が学校に向向いて実施しています。また、総合的な学習の時間の一環として同校7年生を対象とした世界遺産に関する野外授業を、1、2年生には身近な自然や昆虫について学ぶ野外授業を、3年生には森づくりの活動や歴史に関する授業を、そして8年生には知床の自然保全と観光をテーマとしてディスカッション形式の授業を行いました。総合的な学習の

時間に関しては2005年から毎年協力しており、近年では年度初めに担当教諭や地域コーディネーターと授業のスケジュールや内容について打ち合わせをし、1年を通して計画的に実施されるようになっていきます。

しれとこ100平方メートル運動地を訪れた朝日小学校6年生、斜里小学校4年生と6年生を対象に、森づくりの活動や歴史に関する授業を行いました。また、斜里中学校2年生のキャリア学習にも協力し、知床財団がどのような仕事をしているのか知ってもらうため学校へ出向きました。



▲知床ウトロ学校8年生と地元の魅力についてディスカッションする職員。



▲幼稚園でのクマ授業の様子。



▲固定ロープを上り安全確保に向かう職員。羅臼町ふるさと少年探険隊にて。

## 羅臼町

羅臼町では、2007年度から中高一貫教育の、2016年度以降は幼小も加わった幼小中高一貫教育のカリキュラムのもと、職員が学校に出向いてクマ授業を行っています。今年度も幼稚園と小学3年生、小学5年生、中学1年生、中学3年生、高校2年生の全生徒を対象に、計11回のヒグマ授業を実施しました。また2017年度は、初の試みとして標津中学校でもヒグマ対策スタッフが現地に赴き、クマ授業を実施しました。

町内小中学校の職業体験は、羅臼中学校2年生、羅臼高等学校2年生の職業体験学習を羅臼ビジターセンターにて受け入れました。

羅臼町内の小学4、5、6年生を対象に、羅臼の自然や文化を楽しみながら学習し、郷土愛を育むことを目的とした「知床キッズ（羅臼町ふるさと体験教室）」を毎年羅臼町公民館、環境省と協働して実施しています。2017年度も5月から2月まで

の間に計10回の講座を企画しました。今年度で4年目となる「知床キッズ」と斜里町ウトロの「知床自然愛護少年団」との交流事業も引き続き企画、実施しました。プログラムは前年度と同様でしたが、6月に予定していた知床岬でのゴミ拾い活動は悪天候のため実施できませんでした。ウトロのチャシコツ崎における浅瀬の生き物学習は、予定通り7月に実施しました。

羅臼町の小学校4年生から中学3年生を対象とした「羅臼町ふるさと少年探険隊（羅臼町教育委員会、羅臼町公民館、子ども会育成協議会主催）」は、大人でも厳しい知床半島羅臼側の海岸を自分の力で踏破し、そこで生活する5泊6日の野外学習で、35年の歴史を誇ります。知床財団は2014年から運営スタッフとして探険隊を支えており、今年度も職員1名が参加しました。



▲潮だまりの生きものを観察する「知床キッズ」と「知床自然愛護少年団」の子供たち。

環境教育

## 地域向け講座・イベント

### ばたクマ端会議

知床財団が行うヒグマ対策活動に対し、住民の理解と協力を得ることを目的に、知床財団職員とウトロ住民が直接意見交換をする「クマ端会議」を開催しました。5回目を迎えた2017年度は、近年斜里町の市街地付近での目撃情報も複数あることから、ウトロ地域での開催に加えて、斜里町市街地でも開催しました。今回はヒグマ撃退スプレーの試射なども行い、参加者に好評でした。



▲開催5年目となったクマ端会議の様子。

### 住民講座 環境省/C1

地元住民を対象に知床世界自然遺産地域の保護管理や自然の魅力などを題材とした講座の企画・運営を行いました。

斜里町での1回目の講座では標津町で植物を研究されている松下和江氏をお招きし、外来種のアメリカオニアザミと在来のアザミを比較しながらその違いを学習しました。さらに、参加者全員で国立公園内のアメリカオニアザミの駆除を行いました。

2回目の講座では知床博物館の学芸員、合地信

生氏を講師として、知床半島の成り立ちを地質学的観点から学びました。

羅臼町での1回目の講座は、シーカヤックガイドであり登山家の新谷暁生氏をお招きし、知床というフィールドにおけるシーカヤックの魅力やそこにあるリスクなどについてお話しいただきました。2回目は、羅臼町郷土資料館の元館長、涌坂周一氏を講師として「土器の時代からチャシの時代へ」というタイトルで、知床半島における文化の歴史などに関する講座を開催しました。



▲住民講座でアメリカオニアザミを刈る様子。



▲住民講座で地質について学ぶ町民の皆様と講師の合地学芸員。

## 学習教材開発・運用

2017年度、ヒグマ学習教材トランクキット1号機の貸し出し実績は7件、2号機の貸し出し実績は2件となりました。貸し出し出張期間以外では、職員がヒグマ授業や広報イベント、知床自然センター内での観光客向けレクチャー、町民への普及

活動などに活用しました。

アザラシの毛皮や実物大のシャチを描いた大判の布など知床の海獣類に関する小物を詰め込んだ海獣トランクキットは、羅臼ビジターセンターでの観光客向けレクチャーで活用しました。

2017年度ヒグマ学習教材トランクキット貸し出し一覧

所在地	団体名
北海道	NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト (5月)
	オホーツク流氷館 (足跡スタンプのみ)
	北海道キャンピングフェア (内部使用)
	NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト (6月)
	オホーツク ガリンコタワー
埼玉県	日本獣医生命科学大学
北海道	北海道山岳連盟 指導委員会
	札幌山岳連盟
	東京農業大学 オホーツクキャンパス
	札幌市立星置中学校
	ネイパル厚岸

環境教育

## 就業体験の受け入れ

環境教育や調査研究、公園管理の現場で活躍する人材の教育、育成のため、インターンシップ（就業体験）事業を実施しました。主に野生動物や環

境保全を専攻する全国の学生から応募があり、夏冬合わせて6教育機関より6名を受け入れました。

2017年度インターン所属大学

夏期	人数	冬期	人数
茨城大学	1	明治学院大学	1
北陸先端科学技術大学院大学	1	早稲田大学	1
岐阜大学	1		
札幌科学技術専門学校	1		



▲夜間、ヒグマが出没しているかどうか調べるためにカメラを設置するインターン。



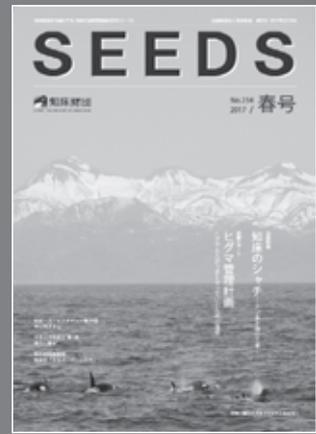
▲会報誌  
SEEDS 2017年夏号.



▲会報誌  
SEEDS 2017年秋号.



▲会報誌  
SEEDS 2017年冬号.



▲会報誌  
SEEDS 2018年春号.

## 広報、寄附・支援者の拡大推進

## 情報発信・サポーター拡大

### 会報誌の発行

賛助会員向けの会報誌である知床自然情報誌「SEEDS」を4回発行、会員の皆様や関係機関へ発送しました。



▲知床財団だより.

### 地域向け情報発信

知床財団に対する理解と協力を得るために、地元住民や関係機関に向けて活動紹介を行っています。地元の斜里・羅臼両町民向けには、2009年度から知床の旬の自然情報や当財団の活動・イベン

ト情報をお知らせする「知床財団だより」を発行しています。2017年度は2ヶ月に1回、斜里・羅臼両町の広報誌に折り込みました（発行部数：斜里町5,050部、羅臼町2,000部）。

### 一般向け情報発信

会報誌「SEEDS」を活用して、観光客を対象とした知床財団のPRや賛助会員獲得に向けた広報を展開しています。2011年の夏から、斜里・羅臼両町の宿泊施設にご協力いただき、「SEEDS」を町内の旅館やホテルなどの宿泊施設に置かせていただいているほか、賛助会員募集パンフレットを地元の旅館のロビーなどに置かせていただいています。

協定先の旭川市旭山動物園では引き続き「しれとこシカ絵巻」をエゾシカエリアに設置いただいています。また、園内図書館には賛助会員募集のパンフレットや「SEEDS」のバックナンバーファイルが設置されており、知床財団活動のPR、賛助会員獲得に向けた広報にご協力いただいています。

## 広報、寄附・支援者の拡大推進

### ホームページなどインターネットを活用した広報の強化

知床財団の活動に対する理解と支援の輪を広げるため、ホームページでの情報発信を継続して行っています。今年度もSNS（Social Network Service）のひとつFacebookを引き続き広報媒体として活用しました。知床財団の職場の様子や活動のひとコマが垣間見られるブログを都度掲載しているほか、イベントの周知や野生動物に関する普及啓発的な内容、さらにオリジナル商品の紹介についても随時アップロードしました。

また、スマートフォンやタブレット端末でも知床財団のホームページが快適に閲覧できるよう、エンドユーザーの画面の大きさや形に合わせてデザインが自動的に変化するレスポンシブ化を図りました。

### 寄附、賛助会員拡大推進

知床財団の活動を広く一般の方へPRし寄附拡大へとつなげるため、毎年札幌近郊で開催されている北海道キャンピングフェアに参加しました。また、羅臼町のイベント「知床開き」、「漁火まつり」や斜里町の「産業まつり」に出展し、地元住民に対し知床財団が行っている活動内容の普及に努めました。

賛助会費の自動引き落としシステムは導入してから1年が経過しました。利用者は徐々に増えてきており、個人年会員の更新率は全体で前年比104%となりました。また、2017年8月よりコンビニエンスストアのローソンとミニストップに設置されている店頭端末Loppi（ロッピー）からも会員の申し込みができるサービスを導入しました。

知床自然センターの館内展示や知床財団ホーム

ページでは、賛助会員募集や寄附の呼びかけ、寄附のお礼の掲載に力を入れました。



▲北海道キャンピングフェアにて知床財団の知名度向上と活動内容の普及に努める職員。



▲地元斜里町で毎年開催される「しれとこ産業まつり」の知床財団ブースの様子。



▲樹皮保護ネットの巻き直しをするボランティアの皆さん。

## ボランティア活動の推進

2017年度末でのボランティア登録者数は200名、その内の43名の皆様が「100平方メートル運動の森・トラスト」の現場での森づくりや羅臼でのルサフィールドハウス裏手に防雪防風防鹿柵を設置する作業などに参加してくださいました。年齢層

は10代から70代までと幅広く、道内のみならず遠くは関東や関西からも駆けつけていただきました。今年度、総活動日数は40日間、のべ参加人数は124.5人日となりました。



▲トドマツ苗の掘り取り作業をするボランティアの皆さん。

# 公益事業 調査研究・ 野生動物管理事業

## ヒグマの調査・対策

### 知床国立公園における野生動物との共生推進業務

環境省/C2

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、知床財団に寄せられたヒグマの目撃や痕跡の情報を基にヒグマの出没地点周辺の状況調査や誘引物の除去、追い払い、電気柵の設置・メンテナンス、観光客への注意喚起・指導などヒグマによる事故や被害を防ぐための活動を実施しました。特に知床五湖やフレペの滝など人の利用の多いエリアにおけるヒグマの出没状況に応じた情報周知を徹底しました。2013年秋に至近距離でヒグマを撮影するなどヒグマの人なれを助長するような行動をとるカメラマンの問題が顕在化した岩尾別温泉道路では、監視小屋周辺にカメラマンが守

るべきルールやマナーを記した看板を設置し、適宜巡回するなどの活動を関係機関と協力して行いました（4年目）。また、キツネへの餌やりなど公園利用者の不適切な行為に対する各種指導や傷病鳥獣の一時保護収容を行いました。



▲岩尾別温泉道路の監視小屋。

### 斜里町ヒグマ管理対策業務

斜里町/A1

斜里町における2017年度のヒグマ目撃件数は1,388件、対策活動が947件で前年度を上回り、近年では3番目に目撃件数が多い年でした。10月9日には知床半島西側基部の朱円東地区の農地において、ハンターが負傷する事件が発生しました。これは知床では31年ぶりのヒグマによる人身事故です。その他、人なれしたヒグマが民家の倉庫を破壊して翌日に国立公園内で駆除された事例や、ふ化場の蓄養池のサケに餌付いてしまった事例などが発生しました。岩尾別川河口を見下ろす道道の急カーブ連続区間では、河口に出現するヒグマ目当ての観光客やカメラマンの車両による渋滞が頻

繁に発生し、対応に苦慮しました。サケ・マス遡上シーズンには、前年度に引き続き有志で構成されている「幌別の釣りを守る会」の方たちが早朝から幌別川河口をパトロールし、ヒグマを無用に引き寄せないように釣り人たちの荷物や釣った魚の管理に目を配りました。知床財団は、釣った魚の残滓を入れるためのヒグマが壊すことのできないゴミ箱の設置やその管理などで協力しました。斜里町内におけるヒグマの人為的要因による死亡数（有害捕獲＋狩猟＋事故）は26頭でした。うち過半数の捕獲原因が農作物被害によるものでした。



▲ヒグマを見ようと路上駐車した車や観光客の混雑。



▲知床岬先端部に座礁したミンククジラを食べるヒグマ。

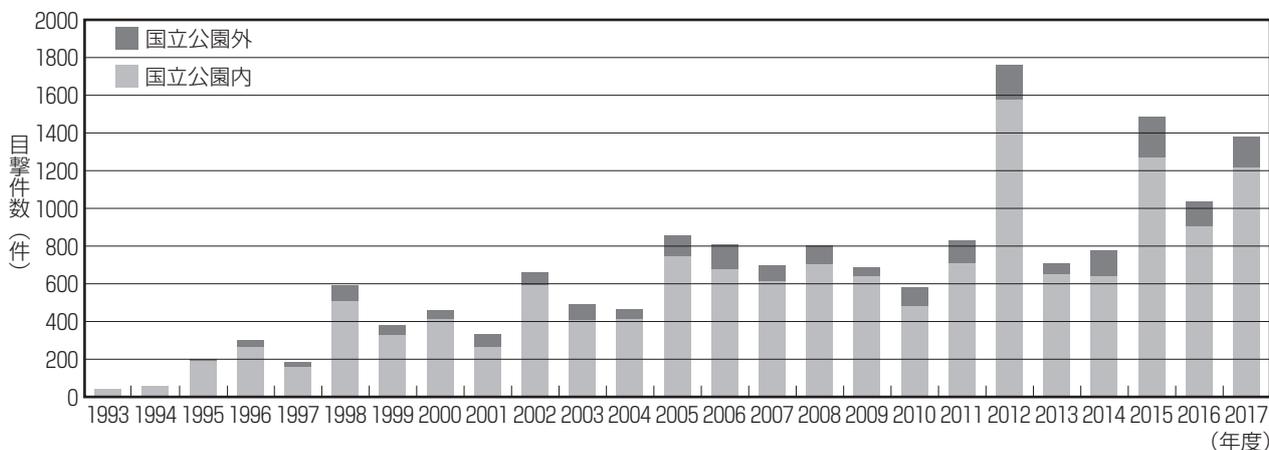
## 羅臼町ヒグマ管理対策業務

羅臼町/B1

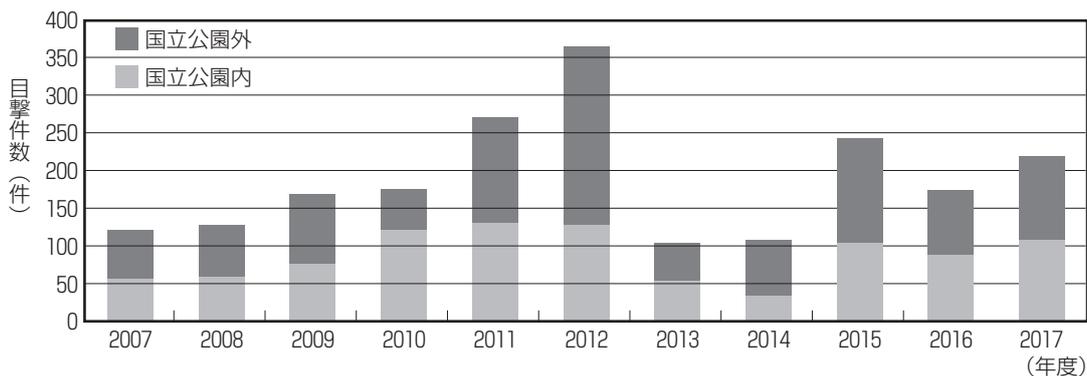
羅臼町内の2017年度のヒグマ目撃は220件、関連する対策活動は174回で、いずれも6月に最多となりました。6月の目撃件数と対策活動回数は、記録を取り始めた2006年度以降最多となりました。

た。対策活動の中で、ヒグマによる漁業番屋施設などの破壊や市街地への侵入といった理由で9頭が有害捕獲となりました。

### 斜里町におけるヒグマ目撃件数の年次推移



### 羅臼町におけるヒグマ目撃件数年次推移



## ヒグマの調査・対策

### 幌別ー岩尾別地区におけるヒグマの生態などに関する調査業務

頻繁に出没していたヒグマ1頭について、麻酔銃による組織片採取（ダートバイオプシー）を行い、遺伝子分析による個体識別を実施しました（北海道大学獣医学部との共同事業）。また、有害捕獲などで得られたヒグマ32個体分（斜里23・羅臼3・標津2・清里4）の頭骨標本を作製して年齢を査定しました。



▲ダート命中後逃走するヒグマ。

### 知床の暮らしと生き物を守る電気柵導入試験業務

知床岬先端部にある斜里側文吉湾の漁業番屋へは、ヒグマが出没してもすぐに駆けつけることができず対策に苦慮していました。そこで近年はヒグマを近づけないための電気柵を設置しています。2017年度は、電気柵を5月に設置しました。電気柵を忌避するヒグマがいた一方で、柵のない海側に回り込んで泳いで文吉湾内に侵入する個体が昨年同様観察されました。またウトロ地区などにおいて、ヒグマによる魚干し場や果樹などの被害の拡大防止を目的として、簡易電気柵の無償貸し出し・設置補助を4件実施しました。



▲ヒグマ侵入防止用の電気柵をメンテナンスする職員。



▲作製したヒグマ頭骨標本.



▲住宅周囲の草刈りをする職員.

## ルシャ地区におけるヒグマの生態などに関する調査業務

斜里町ルシャ地区を利用するヒグマの個体間の血縁関係やルシャ地区の外への移動分散状況を明らかにするため、目視と遺伝子分析（分析試料はヘアトラップにより採取した体毛、麻酔銃ダートバイオプシーによる皮膚組織片、回収した新鮮クマ糞など）によって個体識別調査を実施しました。ルシャ生まれの個体2頭と、ルシャで確認履歴のある個体3頭が、2017年に斜里町と羅臼町で捕獲されたヒグマ37頭の中に含まれており、半島西側

基部方向への移動分散と半島の西から東方向への移動分散がこれまでと同様に確認されました（北海道大学獣医学部・知床博物館との共同事業）。なお、ルシャ生まれの3歳のオス1頭については、ウトロ道の駅の駐車場やウトロの一般住宅の庭に侵入するなど、人を恐れない大胆な行動をしていたことが、落ちていた糞などの遺伝子分析で明らかになりました。



▲20キロ以上離れたルシャ生まれの若オスがウトロ市街地内の遺産センター駐車場に残した糞.



▲遺産センター駐車場クマ糞拡大写真. 表面のツブツブはサルナシの種.



▲幌別河口囲いわな全景.

## エゾシカの調査・対策

### エゾシカ生息密度操作関係業務

環境省/C3, C4 林野庁/D1, D2

近年、増え過ぎたエゾシカの捕獲事業を知床岬地区、幌別・岩尾別地区およびルサ・相泊地区で実施中ですが、これら事業の最終的な目的は各地の植生（植物の集団）の回復です。2017年度も遺産地域内外のエゾシカ捕獲に冬期間の一大事業として取り組みました。岩尾別大型仕切柵を含めて囲いわなを10基、箱わなを20基、くくりわなを約18基稼働させ、流し猟式シャープシューティング

（道路を閉鎖しての銃捕獲）を1ヶ所、誘引狙撃を2ヶ所、巻狩りを斜里町内の国有林2ヶ所で行ったほか、厳冬期にはヘリコプターで知床岬へ行き、仕切柵を利用した巻狩りも実施して捕獲しました。半島内の各地で計277頭のエゾシカを捕獲しましたが、何年も継続している地区では捕獲効率が大幅に低下しており、今後は手法の変更や労力の更なる投下が必要な状況です。



▲幌別河口囲いわなに進入するシカ.



▲ウトロ東囲いわな前のシカ群.



▲知床岬先端部を上空から俯瞰.



▲ルシャ川河口のシカの大群.

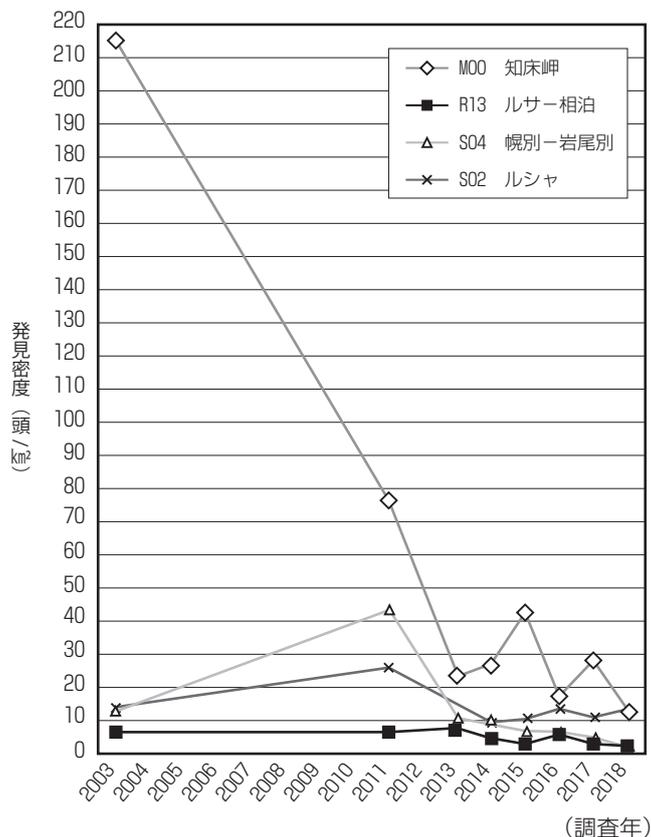
## エゾシカ航空カウント調査業務

環境省/C5

環境省事業によるエゾシカ個体数調整事業を実施しているエリアと実施していない手つかずのエリアとが混在している知床半島の世界遺産地域内において、エゾシカの動向を把握するための航空カウント調査を行いました。調査区10区画で合計

92群659頭のエゾシカをヘリコプターから発見しました。エゾシカの発見頭数は、個体数調整事業を実施しているエリア（下図では知床岬地区、幌別・岩尾別地区およびルサ・相泊地区）では概ね減少傾向でした。

遺産地域内の主要越冬地 4ヶ所における、航空カウント調査によるエゾシカ発見密度の経年変化





▲遠音別岳の調査区へ向かう調査員。

## エゾシカの調査・対策

### エゾシカの採食による植生への影響調査業務

環境省>さっぽろ  
自然調査館/F1

エゾシカを減らした地区できちんと植生が回復しているか、減らしていない地区ではどの程度悪化しているのかを調べるための現地調査が毎年行

われています。知床財団は知床岬地区および遠音別岳周辺の現地調査をサポートしました。

### ルシャ地区エゾシカ季節移動など調査

環境省/C6

世界遺産地域内のエゾシカの主要越冬地の中で唯一捕獲事業が実施されていないルシャ地区のエゾシカの移動範囲（植生に影響を与える地理的範囲）を明らかにすることを目的として、2014年および2016年に生体捕獲してGPS首輪を装着した計

14頭のメスジカの行動範囲などを調査しました（4年目）。出産期の6月に羅臼側へ一時的に移動する個体が2頭確認されましたが、基本的には全個体が1年中、ルシャ地区の中のごく狭い範囲でのみ行動していました。



▲斜里側のルシャから移動し羅臼側のルサフィールドハウス付近に一時滞在していた親子ジカ。



▲植生調査の様子。



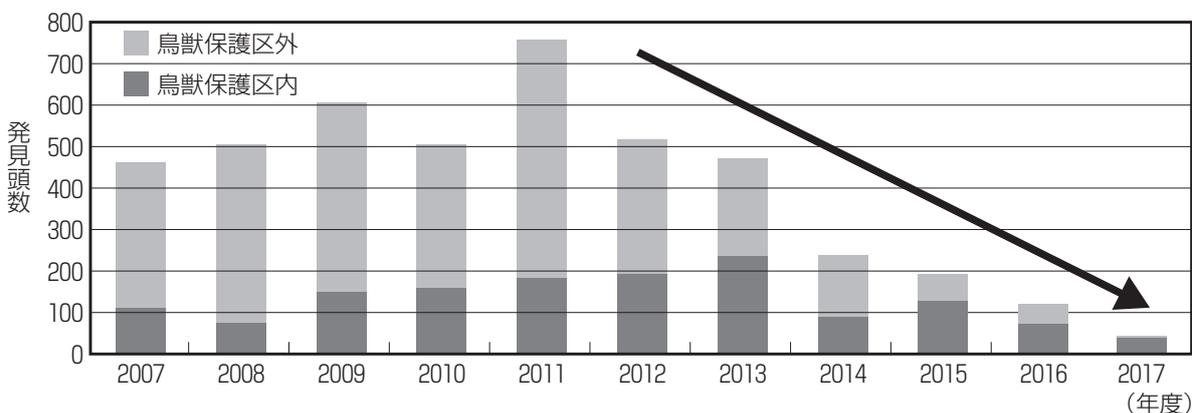
▲夜はライトを照してシカの頭数を数える。

## エゾシカ個体群の動態に関する調査業務

エゾシカが増えているのか、減っているのか、その傾向を把握することは知床半島の環境保全対策を考えるために重要です。半島西側基部寄りの斜里町真鯉地区はエゾシカの主要な越冬地ですが、行政が行う調査対象地区から外れているため、知床財団が独自で国道上からエゾシカの日中カウ

ントを毎年行っています。2017年度は冬期間に計6回実施しました。調査日は原則として猟期を外して設定し、3月中旬に最多である40頭のエゾシカを確認しました。後述の林野庁事業や一般ハンターによる狩猟の効果なのか、本調査によるシカの確認頭数は年々減少傾向となっています。

斜里町真鯉地区のエゾシカ日中カウントによる年度別最大確認数の年次推移



## 網走市エゾシカ生息状況調査

網走市/F2

農業被害と密接に関連する網走市内のエゾシカの生息状況を調べるための新規受託業務です。網走市内に設定した四つのルートで、エゾシカのライトカウント調査を12月に3夜実施しました。網

走市からの委託を受けて東京農業大学が2010年から実施していましたが、担当教授の退官で継続困難となったため、実施時期や調査ルートについて再検討を行った上で、大学から引き継ぎました。

会議運営

## 科学委員会運営業務 環境省/C7, C8

知床世界自然遺産地域の管理の根幹を、科学的な見地から支えているのが科学委員会会議とその付属会議です。知床財団は科学委員会本体会議（8月4日 斜里町、2月21日 札幌市）とエゾシカ・ヒグマワーキンググループ会議（6月19, 20日 斜里町、11月27, 28日 釧路市）の運営事務局として、日程調整、会場準備、資料作成、議事録作成、地

元向けニュースレター作成などを担いました。また、知床世界自然遺産地域を含む日露隣接地域全体の自然環境や生態系の保全のために開催されている日露隣接地域生態系保全協力プログラム推進委員会会議（8月3日 斜里町、2月21日 札幌市）およびその成果報告会（11月3日 札幌市）について運営を担いました。



▲知床世界自然遺産地域科学委員会の様子。



▲ウトロチャシコツ崎で採集した魚類標本。

## その他

### サケ科魚類遡上状況調査業務

林野庁/D3 北海道/E1

知床世界自然遺産地域の生態系の中で陸と海を繋ぐ重要種として位置づけられているカラフトマスの遡上数と産卵床数について、遺産登録時からの変化をモニタリングするための調査を行いました。対象河川は斜里町側のルシャ川とテッパンベツ川、羅臼町側のルサ川です。遺産登録後、2年

に1度の調査が行われてきましたが、2017年度の調査では、いずれの河川でも遡上数と産卵床数は少ない年という結果になりました。調査結果は、知床世界自然遺産地域科学委員会河川工作物アドバイザー会議で報告しました。



▲ルシャ川を遡りながらカラフトマスの産卵床を調査している様子。

### 知床半島浅海域生物相調査業務

環境省>建設環境研究所/F3

世界自然遺産地域内水域の沿岸に分布している魚類、無脊椎動物や海藻類などの生物について、その多様性をモニタリングするための採集調査が10年に1度行われることになっています。2017年

は実施年にあたり、8月と11月に知床岬を含む半島両側の磯で採集調査が行われました。知床財団は、現地調査全体をコーディネートしました。



▲ウトロ市街地柵内の親子ジカ（この後麻酔銃で捕獲）。

その他

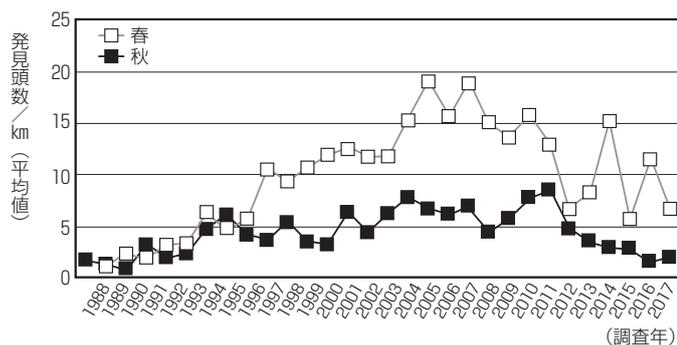
## 斜里町自然環境対策業務 斜里町/A2

斜里町から受託している、ヒグマ以外の野生鳥獣の保護・対策と自然環境全般の保護を目的とした業務です。斜里町内において2017年度に回収などの対応を行ったゴミの不法投棄は44件で、多くは食品の包装や容器などでした。サケ・マスの遡上シーズンには、釣り人に対してゴミや魚の管理徹底を呼びかける注意看板を、幌別川河口などに例年どおり設置しました。

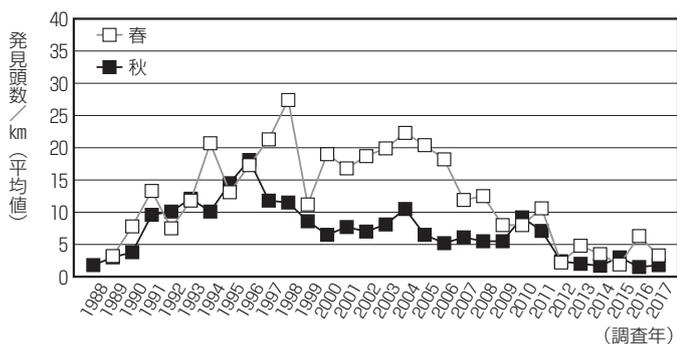
野生鳥獣死体の回収件数は44件、傷病鳥獣の保護収容は17件でした。国立公園入口から知床五湖入口までの区間を対象としたエゾシカのライトカウント調査は春期と秋期に各5回行いました。また、地域住民からの苦情が多いウトロの住宅地エリアに定着しているエゾシカについて、麻酔銃と箱わなによる捕獲を試み、計4頭を捕獲しました。

幌別・岩尾別地区におけるエゾシカのライトカウント調査結果の経年変化

幌別におけるエゾシカライトカウント調査の結果



岩尾別台地におけるエゾシカライトカウント調査の結果





▲斜里町内で回収したアライグマ(特定外来生物)の交通事故死体。



▲羅臼小学校運動場で保護収容したマガン。

## 羅臼町自然環境対策業務 羅臼町/B2

羅臼町の自然環境に異常がないかどうか監視するため、町内全域（先端部を除く）を対象とした巡視を行いました。2017年度は計49回のパトロールを行い、ゴミの不法投棄を8件確認しました。またこの業務では傷病鳥獣の保護収容も行っており、交通事故で負傷したり、網に絡まって動けなくなったエゾシカや希少鳥獣のオオワシ、オジロワシ、マガンなど計34件について対応しました。羅臼町の自然を脅かす特定外来生物に関する情報収集や捕獲作業も本業務内で行っており、アライグマやアメリカミンクの死体を収容しました。

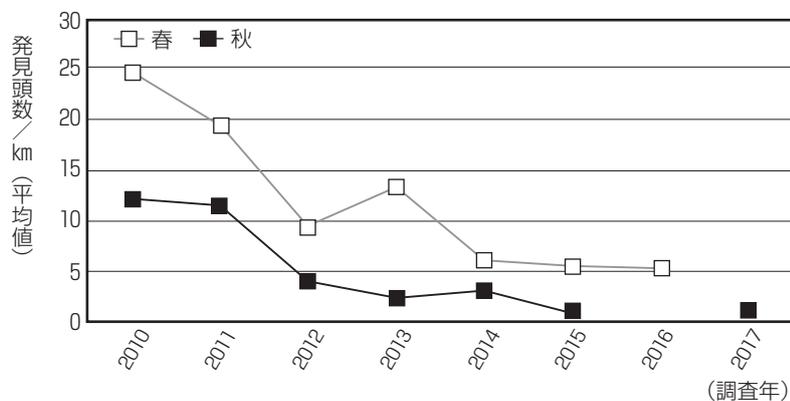
知床で増えすぎて問題になっているエゾシカの

増減を把握するためのライトカウント調査は、例年通り春期と秋期に各5回行いました。



▲羅臼漁港で保護収容したオジロワシ。

岩見橋～相泊(10.2km)区間におけるエゾシカライトカウント調査結果の経年変化



その他

## 希少鳥類などの長期モニタリング

知床で繁殖している希少種のおジロワシについて、各種団体や個人が独自に進めている調査データを統合、集約し情報を共有することを目的として活動している「おジロワシ長期モニタリンググループ会議」の事務局を引き続き担いました。この会議は毎年年末に1回開催しています。このグループ内で当財団が調査担当となっているおジロワシの営巣木について、当年の営巣の有無や雛数などについて情報収集しました。また、羅臼町の

市街地で糞や鳴き声などが問題となっているオオセグロカモメについて、基礎的情報を収集することを目的とした営巣数調査を6～7月に5回行いました。冬期の観光船による餌やりという生物保全と観光との間で課題を抱える海ワシ類（オオワシ、おジロワシ）については、餌の量と海ワシ類の分布の関係や、アンケートによる観光客の満足度などについて調べ、行政機関や観光船業者へ結果を報告しました。



▲おジロワシ営巣状況調査の様子。



▲ドローンによって確認された焼き印のあるトド。この焼き印によりどこで生まれたトドかがわかる。個体の識別もしやすくなる。

## 海生哺乳類モニタリング

知床では世界自然遺産地域に関する定期的な保全状況報告書を政府がユネスコに提出するたびに、審査機関であるIUCN（国際自然保護連合）とユネスコから、トドの保護管理に関する勧告を受け続けています。一方で知床海域に特化したトドの調査はあまり行われておらず、知床財団が10年以上実施しているトド調査のデータは、数少ない貴重なデータとして政府の保全状況報告書にも引用されています。そこで知床財団では、冬期にトドの来遊海域となっている羅臼町から標津町北部の沿岸で陸上の定点からのカウント調査を継続実施しています。なお2017年度からは調査手法を

変更し、ドローン（無人航空機）による遊泳群の上空からの撮影および群れに含まれている標識個体の確認に調査努力を集中しました。知床にやってくるトドがどこで生まれたのかを明らかにし、標識再目視法（mark-resight method）による来遊数推定に応用するためです。2017年度の冬期に確認した標識個体は計11頭で、そのうち10頭が中部千島で生まれた個体で、7頭（63.6%）は、2016年以前にも知床で確認された個体でした。また、北海道区水産研究所や稚内水産試験場によるトドの解剖調査や胃内容などのサンプリングにも協力しました。

## 水域における生物群集モニタリング

羅臼町では深層水を汲み上げて産業利用をしています。汲み上げられた水には様々な深海生物が含まれています。その中には数年前に発見された新種のタマコンニャクウオといった貴重な魚類もありました。2017年についても施設を管理する羅臼町の協力を得て、様々な生物の収集を行いました。また、2012年に国後島と択捉島で採集した魚類について北海道大学・国立科学博物館と種の同定を進めました。



▲国立科学博物館で整理した魚類の液浸標本。

その他

## 知床半島におけるヒグマ捕獲情報の収集

斜里、羅臼および標津の3町におけるヒグマの死亡数およびそれらの性別や年齢などの情報は知床半島のヒグマ管理計画上きわめて重要なデータとなります。しかしながら、特に町外在住ハンター（狩猟者）による狩猟期のヒグマの捕獲件数がどのくらいあるのかについては地元で把握できていない可能性が以前から指摘されてきました。そこで、捕獲したヒグマに関する情報とDNA分析用

サンプルの提供を呼びかけるチラシを北海道の各振興局を通じてその年に登録した狩猟者全員に配られる地図（鳥獣保護区など位置図）と一緒に初めて配布しました。また報奨品としてオリジナルバッジを作製し、実際にご協力いただいたハンターに配布しました。ささやかなバッジですが実物を目にしたハンターからは好評で、今後の協力についても期待が持てそうです。

## 学術的な交流と成果発表

### 学会口頭発表

- 大石和恵，阿部瑛理香（海洋研究開発機構），石名坂豪（知床財団），藤井啓（ひれあし研究会），丸山正（海洋研究開発機構）．北海道の襟裳岬と知床半島に棲息・回遊する鱒脚類におけるブルセラ菌感染の血清疫学研究．第23回日本野生動物医学会大会 日本獣医生命科学大学（武蔵野市） 2017年9月
- 梶光一（東京農工大），山中正実（知床博物館），増田泰，石名坂豪（知床財団），邑上亮真（東京農工大）．知床岬のエゾシカ個体群の爆発的

- 増加が植生とシカ個体群に与えた長期的影響．日本哺乳類学会 2017年度大会 富山大学（富山市） 2017年9月
- 下鶴倫人（北大），山中正実（知床博物館），中西将尚，白根ゆり（北大），石名坂豪，葛西真輔，能勢峰，増田泰（知床財団），坪田敏男（北大）．知床半島ルシャ地区におけるヒグマの繁殖特性 -長期追跡調査に基づく繁殖指標の算出- 日本哺乳類学会2017年度大会 富山大学（富山市） 2017年9月



▲情報提供狩猟者への配布用クマバッジ。

## 学会ポスター発表

- 石名坂豪, 土屋誠一郎 (知床財団), 佐藤瑞奈, 吉田剛司 (酪農学園大学), 増田泰 (知床財団).  
ドローンを活用したトド遊泳群のカウント、標識個体の識別および標識再捕法による根室海峡来遊群の個体数推定. 日本哺乳類学会2017年度大会 富山大学 (富山市) 2017年9月
- 阿部森也 (東京農工大), 石川幸男 (弘前大),

宮木雅美 (酪農大), 渡辺修 (さっぽろ自然調査館), 石名坂豪, 葛西真輔, 増田泰 (知床財団), 梶光一 (東京農工大). エゾシカの生息密度の低下に伴う選好性の異なる群落間の下層植生の変化. 日本生態学会第65回全国大会 札幌市 2018年3月

## 学術誌

- Michito Shimozuru, Masami Yamanaka, Masanao Nakanishi, Jun Moriwaki, Fumihiko Mori, Masakatsu Tsujino, Yuri Shirane, Tsuyoshi Ishinazaka, Shinsuke Kasai, Takane Nose, Yasushi Masuda, Toshio Tsubota (2017)  
Reproductive parameters and cub survival of brown bears in the Rurua area of the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan. PLoS one 12(4):e0176251. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0176251>
- Noriko Azuma, Nadezhda I. Zaslavskaya, Tomoyasu Yamazaki, Takahiro Nobetsu, Susumu Chiba (2017) Phylogeography of

*Littorina sitkana* in the northwestern Pacific Ocean: evidence of eastward trans-Pacific colonization after the Last Glacial Maximum. Genetica 145(2):139-149.

- Mayuko Otsuki, Tomonari Akamatsu, Takahiro Nobetsu, Daisuke Mizuguchi, Yoko Mitani (2018) Diel changes in ribbon seal *Histiophoca fasciata* vocalizations during sea ice presence in the Nemuro Strait, Sea of Okhotsk. Polar Biology 41(3):451-456.

- 松崎浩二, 平治隆, 森俊彰, 野別貴博, 木戸芳 (2017) 日本初記録のハゴロモコンニャクウオ (新称) *Careproctus zachirus* (クサウオ科) 魚類学雑誌 64(2):179-184.

## その他

### 紀要・報告書・商業誌

---

- 船坂徳子, 石名坂豪 (2017) 海棲哺乳類の保全・管理のための調査・解析手法【7】～繁殖～. 海洋と生物 39(2):163-174.
- 増田泰 (2017) 遺産登録からこれまでの歩みと今後の課題 (世界自然遺産の今). 国立公園 754:11-13.
- 秋葉圭太 (2017) 自然保護地域における持続可能な観光 (特集: 持続可能な観光). 観光文化 235:18-20

### 知床ゼミ

---

外部研究者や職員を発表者とした勉強会を計5回開催しました。当財団スタッフや関係機関などから、のべ116名の参加がありました。

### 書籍

---

- 石名坂豪 (2017) 知床世界自然遺産地域のエゾシカ管理. (梶光一・飯島勇人 編: 日本のシカー増えすぎた個体群の科学と管理) pp.141-162. 東京大学出版会, 東京.



▲石名坂研究員が知床世界自然遺産地域のエゾシカ管理について執筆を担当した「日本のシカー増えすぎた個体群の科学と管理」。

## JBN業務

JBN/F4

日本クマネットワークは、個人や地域ごとの単独の活動だけでは解決が難しい全国レベルの諸問題や国際問題に関し、必要に応じて社会に対して働きかけを行い、人とクマのより良い関係を構築する活動を行っているNGO組織です。近年は、絶滅の恐れのある四国のツキノワグマ個体群の保全活動に精力的に取り組んでいます。会員は専門家やクマに関心を持つ一般市民、およそ320名で構成されています。

日本クマネットワーク（JBN）からの受託業務として、JBN会員向けニュースレター「Bears

Japan」の発送、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」の発行・販売、JBNホームページの運営管理を行いました。年3回発行のJBN会員向けニュースレター「Bears Japan」は会員や関係機関に、のべ828件発送しました。また、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」については、店頭および通信販売を通じて計58部を販売しました。ホームページについては、日常的な掲載内容の更新を実施しました。

施設の管理・運営

## 知床自然センター

### 施設の管理と運営 斜里町/A3

知床自然センターおよび周辺施設の維持管理、映像ホールの運営と料金徴収などの業務を行いました。2017年度の知床自然センター入館者数は194,746名で、前年度比105%となり、2年連続での

増加となりました。映像ホールの入館者数は13,411名（前年度比80.5%）と減少しました。これは、改修工事のため11月から1月までの3か月間、映像ホールが全面閉館となったことが一因です。



### ビジター向けインフォメーション・環境教育など業務 斜里町/A3

知床自然センターでは、2016年度に続き第2期の改修工事が11月から始まり、映像ホールを中心とした館内の改装が行われました。施設の改修と

合わせたサービス面の刷新に向けた取り組みを斜里町と連携を密にしながら実施しました。

#### 1) インフォメーションカウンターの運用

フィールド情報をリアルタイムで収集し発信するため、twitterなどのSNSや知床財団が作成した「知床情報玉手箱」の運用を強化・継続しました。特に海外の観光客に対する英語での情報発信の充実を図りました。従来、知床国立公園内の施設、観光船、遊歩道などの開閉・運用などの状況は各管理者からばらばらに情報発信されていましたが、「知床情報玉手箱」はそれらを一覧できるポータル

サイトであり、かつ知床半島全域のフィールド情報をほぼカバーしているため、知床を訪れている観光客が行動計画を立てる際に役立つウェブサイトとしてその利便性が高く評価されています。また、9月に供用開始となった新しい遊歩道「森づくりの道 開拓小屋コース」の案内やヒグマ情報の提供にも取り組みました。



▲改修工事で外観が一新した知床自然センター。

## 2) レクチャールームの活用と普及啓発事業の実施

ヒグマの活動が活発となる上半期においては、最新のヒグマ情報や安全対策を伝える「日刊・知床ヒグマ情報」と題した20分ほどのトークプログラムを毎日実施し、総計765名の参加がありました。知床の自然の魅力や財団の取り組みを職員が直接分かりやすく伝える「知床財団 スタッフトーク！」は毎日2回設定し、2,952名の参加がありま

した。トークにあわせて財団活動のPRも行い、371,284円の募金を集めています。

財団の活動を伝え、支援の輪を広げることを目的として活動紹介コーナーを拡充し、支援企業の掲示などを追加しました。募金箱の設置をし、2017年度は前年度を大きく上回る総計739,986円の募金を集めることができました。

## 3) 映像ホールの刷新

改修工事により、内装やシートが一新されました。リニューアル後の2月1日からは特別作品として、写真家石川直樹氏によるオリジナル作品の上映を開始しています。また、29年ぶりに新しい映

像プログラムを作ることが決まり、2月には制作者も決定されました。財団の知見を魅力的な作品作りに活かすため、斜里町と連携しながら制作プロジェクトに主体的に関わっています。



▲新しくなった映像ホール。

## 施設の管理・運営

### 4) 常設展示・企画展示室の運用

館内展示について、従来の展示物の整理を行い、テーマや導線に沿った再配置や外国語表記を継続しています。また、柱展示も従前通りの取り組みを継続中です。新設された企画展示室では年2回

の企画展を実施したほか、ミニギャラリーでは6回の写真展を行いました。いずれも外部機関や関係者との連携により企画制作しており、幅広いテーマを取り扱いました。

### 5) 屋外スペースの整備と導線の確立

9月より100平方メートル運動地の公開コース「しれとこ森づくりの道 開拓小屋コース」が新規オープンしたことから、このコース入口への導

線を明瞭にするための標識の設置や園地の整備を実施しました。自然センターを中心とするホロベツエリアの魅力あるトレイル作りを進めました。

### 6) 広報・記念イベントの実施

2017年度は地域の住民を主な対象としたイベントを2回実施しました。10月には、家族向けのイベントとしてアニメーション映画の上映を行い、300名を超える参加がありました。3月には、映像ホールのリニューアルを紹介する映画会として、今津秀邦監督による劇場公開映画「生きとし生けるもの」の上映を行い、160名以上の参加がありました。

また、知床自然センターの展示やイベント、最新の取り組みを紹介する「知床自然センターだより」の発行を継続、ウトロの宿泊施設および観光関係施設（全34施設）に配布して宿泊者への情報提供に役立てていただいています。



▲映画「生きとし生けるもの」の上映イベントの様子。



▲羅臼岳登山道を巡視する職員。

## 知床自然教育研修所 斜里町/A3

知床財団が維持管理を行う知床自然教育研修所は、知床の保全活動を行う人々が滞在するためになくてはならない施設です。2017年度は、知床で

動植物などの調査を行う外来の研究者や森づくりを手伝ってくださるボランティア活動参加者を中心に1,219人泊の利用がありました。

## 羅臼ビジターセンター

施設の管理と運営 羅臼町/B3 環境省/C9

羅臼ビジターセンターの来館者数は42,991名で前年度比は104%、過去最多の来館者となりました。知床国立公園内の羅臼町側の主要な利用拠点（羅臼湖、羅臼岳、熊越えの滝、羅臼温泉園地など）の自然情報、利用状況や野生動物の生息状況などを収集する巡視を実施し、館内での情報提供に活用しました。カウンターでの情報提供のほかに自

然観察会を5回、特別展示を5回開催しました。また、ビジターセンターに隣接する間歇泉の噴出時刻を予測し、来館者に提供しました。

地域住民向けのイベントを夏冬1回ずつ実施しました。夏には木工づくりイベント、冬にはキッズフェスティバルを実施し、多くの町民の方々に来館いただきました。



▲夏のイベントとして開催された木工づくりの様子。



▲冬のイベントとして開催されたキッズフェスティバルの様子。

施設の管理・運営

 ビジター向けインフォメーション・環境教育など業務

来館者に対し、知床の自然についてより深く知っていただくため20分程のミニレクチャーを実施しました。2017年度は8月から9月の繁忙期に計13回実施し、288人の方にご参加いただきました。レクチャーの内容は、知床の海の生き物に関することやヒグマの話、羅臼昆布やマルハナ

バチについてなど、バラエティー豊かな内容で行いました。また、冬期間の利用者によりビジターセンター周辺を楽しんでいただくために、ビジターセンターの裏手から間歇泉やキャンプ場をめぐるスノーシューコースを新しく設置し、積雪時期の新たな公園利用の提案を行いました。



▲海の生き物たちについてレクチャーする職員。



▲羅臼昆布についてレクチャーする職員。

## 羅臼研究支援センター 羅臼町/B3

知床財団が維持管理している羅臼研究支援センターは、知床世界自然遺産地域およびその周辺地域の保全管理にかかわる調査研究などを行う人々

が利用できる宿泊施設です。2017年度は外来の研究者を中心にのべ17名、169泊の利用がありました。

## 知床五湖園地

### 施設の管理と運営 斜里町/A4

開園期間中、知床五湖園地への給水設備の維持管理を行いました。また、開園前の4月上旬には、水源地から園地までの通水作業を行い、閉園時の11月中旬には台風の影響により破損した給水設備

の補修と停水作業を行いました。また、夜間のヒグマとの遭遇、調理やゴミの投げ捨てなどヒグマを誘引するような行為を防止するため、知床五湖の駐車場の夜間閉鎖を行いました。

施設の管理・運営

知床五湖利用調整地区の運営 環境省/C10 知床ガイド協議会/F5

知床五湖園地の一部では、自然の保全と持続的な利用の両立を図るため、利用者の立ち入りの人数などを調整する利用調整地区制度が2011年から導入されています。この制度はヒグマに関するリスク管理体制、観光地における認定ガイド制度など、様々な面で先進的な取り組みとして注目を集めています。知床財団はその運営の要となる指定認定機関（環境大臣指定）として制度全体の運用を担っています。

森の中の遊歩道を歩く際はガイドツアーに参加することが義務付けられているヒグマ活動期（5月10日～7月31日）には、前年度に作成したルールブックを現場に導入し、安定的なガイドツアー

運用を行うことができました。また、知床ガイド協議会と協力しガイドツアー情報や当日のツアー参加希望者への予約サービスを例年通り行いました。

ヒグマ活動期の利用者数は堅調に伸びており、特に外国人利用者の増加が目立っています。期間中1万5千名を超える来園者がガイドツアーに参加しました。通年の立ち入り認定者数は72,282名となり、制度開始以来最高の実績となっています。9月には台風の影響による閉鎖などが発生したものの、全体としては安定的な運用を行うことができました。



▲散策前の事前レクチャーの様子。



▲五湖立ち入り認定事務手続きの様子。



## 知床五湖の魅力向上事業

知床五湖の利用システムを広く地元の皆様に体験してもらうため、「知床五湖ローカル割引キャンペーン」を2017年度も継続して実施しました。このキャンペーンは斜里・羅臼の両町民に対し地上遊歩道を無料で楽しめるサービスを提供するも

ので、今年度は150組304名の利用がありました。

遊歩道のコンディションや自然情報などのリアルタイム情報を収集し、発信しました。特に、外国人対応として展示物や案内物の英語表記や絵文字化を強化しました。



▲遊歩道の状況をリアルタイムでお知らせする手づくりの案内板。

施設の管理・運営

## ルサフィールドハウス

### 施設の管理と運営 環境省/C11

ルサフィールドハウスは知床半島先端部を目指す人々へその魅力や楽しみ方、安全管理など様々な情報を提供するための施設です。

2017年度、ルサフィールドハウスの開館期間は4月から10月の7ヶ月間となりました。今年度の来館者数は7,931名で前年度比は128%、羅臼ビジターセンターと同様にルサフィールドハウスも過

去最高の来館者数となりました。悪天候などによる臨時閉館も少なく、各種イベントを通して多くの方々にご来館いただきました。また、知床半島先端部地区へ立ち入る利用者に対しては引き続きルールを含めた最新情報や留意点などについてレクチャーし、こちらもこれまでで一番多くの回数を実施しています。



▲知床半島先端部へ向かうトレkkerへのレクチャーの様子。



### ビジター向けインフォメーション・環境教育など業務

一般来館者に対し施設展示を活用しながら数多くの鯨類が利用している羅臼の海の豊かさなどに

ついて解説しました。



▲カムイワッカ湯の沢の様子。



▲カムイワッカ駐車エリアの様子。7月の連休は混雑対策が課題に。

## 知床国立公園利用の適正化

### カムイワッカ地区の運営

知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会/F6, 環境省/C12, 斜里バス/F6

夏の繁忙期間中は知床五湖とカムイワッカ湯の滝を結ぶ道路で渋滞がたびたび発生することから、その緩和を目的に、マイカーによるカムイワッカ地区乗り入れを規制し、その代わりにシャトルバスが運行されています。2017年度はシャトルバス運行期間を8月1日から25日までとして、その他の期間をマイカーによる自由通行期間とする利用体制となりました。カムイワッカ地区の現地連絡調整業務を自動車利用適正化対策連絡協議会から受託業務としてバス会社や各地に配置された警備員や監視員との連絡調整、利用状況の調査や利用

者への情報提供、ヒグマ出没時の連絡整理、負傷者への対応などを行いました。また、マイカー規制期間には湯の沢の安全指導や情報収集を行う監視員を雇用し、配置しています。

知床自然センターでは、シャトルバスのチケット販売事業をバス事業者から受託し、来館者がバスチケットの購入と目的地の情報取得が1ヶ所のできる体制を敷きました。

マイカー規制期間外となる7月や9月の連休においては、混雑や事故防止のため関係諸機関と共同で現地の誘導や安全管理を行いました。



▲知床自然センターでシャトルバスのチケットを販売する職員。

知床国立公園利用の適正化

## 知床五湖などの利用適正化の検討

### 知床五湖など利用適正化検討業務 環境省/C12

知床五湖やカムイワッカといった主要な利用エリアの制度設計や地域の合意形成を進めるための会議運営を行いました。知床五湖の利用のあり方協議会を2回、カムイワッカ部会を1回開催しました。知床五湖でのガイドツアーを担う登録引率者の養成や研修、試験などに係る専門部会も2回開催しています。知床五湖は毎年4月下旬に開園を迎えるため、年によっては開園はしているものの積雪のため遊歩道の利用がたびたび制限されると

いった問題がありました。今春、開園時期に遊歩道環境の現地調査を行い、どのくらいの積雪状況なら一般利用が可能なのか、また登録引率者同行といった条件付きならば利用可能なかなどについて関係者間で意見交換を行いました。秋には、自由利用期間においてレクチャーなどを実施し、ルールの普及などを行いました。また、その効果を検証し、知床五湖の利用のあり方協議会などへ報告しました。

### 知床五湖利用適正化計画改定実験の企画実施 環境省/C12, C13, C14

知床五湖利用調整地区の運営においては、社会情勢や自然環境の変化に柔軟に対応するため、定期的に制度を見直すこととされています。前年度から続いてきた議論を踏まえ、2017年度は制度改定を視野に入れた社会実験を春と秋の2回実施しました。春には、5月連休前後の残雪期におけるガイドツアーの試行を行うと同時に利用者の意識調査や植生などのモニタリング調査を実施しました。



▲遊歩道のモニタリング調査の様子。



▲知床五湖の利用制度のあり方を尋ねるアンケート調査。



▲知床自然センターのサイネージに表示される知床情報玉手箱サイト。

## 知床エコツーリズム総合推進事業

知床財団はよりよい公園利用のあり方を目指し様々な協議や試行事業に参加しています。知床では近年、地域提案型の利用のあり方やルール作りの仕組みが確立されつつあります。知床財団もこうした取り組みに参画しており、当財団が2015年

度に提案し立ち上がった「外国人旅行者向け情報発信の強化」部会を自ら運営しました。この部会の事業として、情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」(P32参照)を構築し、運用を開始しました。



▲地元住民に対しキャンペーンの案内をする職員。



▲ルサカフェ。

## 知床国立公園利用の適正化

### ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務

前年度に引き続き、ルサフィールドハウスの知名度向上と幅広い層の方々に利用していただくことを目的として、館内でお茶とお菓子を楽しめるカフェを開きました。2017年度は7月21日～7月23日の3日間と9月13日～9月17日の5日間に、のべ367名の方にカフェを利用していただきました。9

月のカフェでは夜間の延長開館を実施し、のんびりとくつろげる館内はとて素晴らしい雰囲気でした。また、ルサフィールドハウス裏に植生保護のための防風防雪柵を設置する作業を行い、この活動を周知するための町民イベントも実施しました。



▲ルサカフェの様子。



▲ルサ柵設置作業。

### 知床半島先端部地区 適正利用の啓発及び利用のあり方検討業務

環境省/C15

相泊以北の知床半島先端部地区を含めた知床国立公園の今後の利用のあり方について検討を行うため、地域内の意見をとりまとめる懇談会を3回開催しました。また、知床半島の先端部地区へ立ち入る際の留意事項や禁止事項をまとめた冊子

「知床半島先端部地区利用の心得」の普及WEBサイト「シレココ」のリニューアルと海岸トレッキング、シーカヤック、知床岳登山、サケ・マス釣りの4つのアクティビティに関するリーフレットの作成を行いました。



▲海岸トレッキングのリーフレット作成のため現地踏査する職員。

## 大雪高原温泉ヒグマ対処法普及啓発業務

環境省/C16

大雪山国立公園の大雪高原温泉沼めぐりコースは、ヒグマが生息する地域内を歩道が通り、立ち入り時に安全のための事前レクチャーを行うなどの対策が行われています。ヒグマと観光をめぐる課題は知床国立公園との共通性も多々あることから、知床地域でのヒグマ対策や知床五湖などでの

取り組みを踏まえ、沼めぐりコースと入り口のゲート施設であるヒグマ情報センターの安全管理や次世代を担う人材の育成を強化していくための提案を行いました。将来的にはヒグマ観察などを核としたエコツーリズムの導入可能性も検討しました。



▲沼めぐりコースでの現地調査。



▲現地スタッフとのミーティング。

## しれとこ100平方メートル運動

### しれとこ100平方メートル運動地における森林再生業務 斜里町/A5

斜里町が主催し、現在知床財団が現地業務を担っている「しれとこ100平方メートル運動」は開始から40年、同運動の第2ステージである「100平方メートル運動の森・トラスト」が原生の森と生き物の営みの再生への取り組みを始めて20年が経過しました。この20年間は、高密度に生息するようになったエゾシカから木々を守るための攻防が続きました。また、かつて運動地を流れる川に生息していたサクラマスが再び戻ってくることを

目指し、発眼卵の放流などを行ってきました。現在、苗木はその年月の分だけ育ち、サクラマスは回帰の兆しが見え始めてきています。森づくりの活動をより多くの人に知ってもらうため、運動地内を歩く遊歩道を整備して一般に公開する新しい試みも始めました。次の20年間は、これまでの成果と蓄積をもとに、森と生態系の復元、運動を伝えるための取り組みを着実に進めていきます。

#### 森林再生作業

春から秋にかけて、苗畑での除草や苗木の根づくり、樹高6メートル以上の大型苗の移植、老朽化した防鹿柵の補修などの作業を行いました。これらの作業は全て多くのボランティアの皆様にお手伝いいただきながら進めました。

また、2017年度は重機を用いたササ地の掻き起こし作業を新たな取り組みとして行いました。これは、掻き起こすことでササの勢力を弱め、これ

まで育たなかった稚樹が育ちやすい環境を作ることを目的とした作業です。

近年、運動地の一部ではエゾシカ捕獲の効果によるシカの生息密度の低下が確認され始めています。これまで防鹿柵の設置や樹皮保護ネット巻きなどシカ対策に多くの労力を費やしていましたが、これからはこれまでできなかったササ地や造林地での森づくりを進めていく計画です。



▲重機を用いたササ地の掻き起こし作業の様子。



▲しれとこ100平方メートル運動40周年記念事業の様子。

## しれとこの森交流事業

森づくりの現場と運動参加者をつなぐ交流事業では、「第38回知床自然教室」（7月30日から8月5日、参加者43名）、「第21回しれとこ森の集い（植樹祭）」（9月17日、参加者118名）、「第21回森づくりワークキャンプ」（10月30日から11月4日、参加者13名）の企画・運営を行いました。

9月16日から17日の2日間は、斜里町との共催で

100平方メートル運動40周年記念事業を開催しました。植樹のほか、午来元町長や石川幸男専門委員会座長などの講演、運動地の中を通る遊歩道「森づくりの道 開拓小屋コース」の散策などを行いました。両日合わせて100名以上の運動参加者や斜里町民の皆様にお集まりいただき、森づくりの現場を知っていただく機会となりました。



▲開拓小屋と40周年記念事業参加者の皆さん。

## しれとこ100平方メートル運動

### 森林再生専門委員会議運営

森づくりの作業計画は動植物の専門家と地元の有識者で構成される森林再生専門委員会議の場で議論され、その方向性が定められています。2017年度は森づくり開始から20年目の節目となることから、これまでの20年間の総括と次期20年間の目標と計画について議論を重ねました。

次の20年間は「森・川・人」をテーマに森づくりや生物相復元、そして運動地公開を進めていく方針が提案され、大筋の合意を得ることができました。これらの議論を踏まえ、斜里町は2017年度末に100平方メートル運動の今後の指針を示す「第2次中期方針（2018～2037年度）」を策定しました。

### 運動地広報企画

100平方メートル運動の広報誌『しれとこの森通信No.20』（A4判カラー12ページ）の企画・編集作業を行いました。また、斜里町民向けに運動の状況を伝えるチラシ『しれとこの森通信ミニ』（季刊）を作成し、町広報誌に折り込み配布も行っていきます。

運動ホームページでは、日々の作業状況を発信するとともにイベントやボランティア募集の媒体としても活用しています。



▲森通信ミニ2017 No.1.



▲「しれとこ森づくりの道 開拓小屋コース」から望む羅白岳の展望。

## しれとこ100平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業

知床財団は斜里町と連携を図りながら「100平方メートル運動の森・トラスト」の普及や推進を目的とした独自の事業に取り組んでいます。

運動地公開コース「しれとこ森づくりの道」の新たなルートとして、「開拓小屋コース」を開設しました。知床自然センターを起点に旧開拓家屋や開拓小屋を巡る約5km、所要時間約2時間の散策路で、途中には、開拓の歴史を伝える家屋や放牧地跡や現在進めている森づくりの作業地があり、突き当りの展望地からは知床連山が望めます。9月のオープンから11月末までに385名の方に利用していただきました。その他、2014年に開設した

「シカ柵コース」や冬期のスノーシューコースの開設と運営も引き続き行いました。

知床自然センターでの運動普及に向けた取り組みとして、ウトロ学校や斜里小学校、朝日小学校、斜里高校などの教育機関の受け入れを行い、教室での授業だけではなく、実際に運動地を歩き100平方メートル運動の取り組みや開拓の歴史について紹介しました。

合宿形式の森づくりイベントでは、「知床森づくりの日」(5月)を開催し、8名の皆様が知床の森を訪れ、実際の森づくりに関わっていただきました。



▲スノーシューコースの整備作業の様子。

# 第2期ダイキン工業株式会社寄附事業



2011年7月にダイキン工業株式会社、斜里町、羅臼町、知床財団の四者が協定を結び、2016年3月までの約5年間、知床世界自然遺産地域とその周辺地域において自然環境を保全するための事業を実施しました。その後2016年1月に再度四者協定が結ばれ、引き続きダイキン工業株式会社からご支援をいただけることになりました。

知床財団は「第2期ダイキン工業株式会社寄附事業」として、開拓以前の森である針広混交林の

復元、地元の子供たちを対象とした環境教育活動の支援、知床来訪者への森づくりに関する普及啓発、そしてヒグマと人の共存を支援する活動などを実施していく予定です。

なお、2017年度は5月に11名、9月には12名のダイキン工業社員ボランティアの皆様が知床を訪れ、それぞれ3泊4日の日程で苗木の移植や防風柵の設置など森づくり作業のお手伝いをしていただきました。

## 多様性に富むしれとこの森を復元する事業

### 100平方メートル運動の森・トラスト及びその関連事業

広葉樹や針葉樹の育成と植樹、森の復元を進める上で障壁となっているエゾシカの対策として、過去に設置した防鹿柵や樹皮保護ネットの補修作業を行いました。また、6月からは新しい苗畑の造成作業を始めました。その後、ボランティアや学生など多くの皆様の協力をいただき10月に完成、トドマツの苗木320本を植え付けました。これらの苗木は、3年後の植樹を目標にしばらくの間この苗畑で育成していく計画です。この苗畑では引き続き各種の苗木の育成を行っていく予定です。

その他、運動地の中で特に広い面積を占めているアカエゾマツ（針葉樹）の造林地をもともと知床にある多様性の高い森へ転換していく作業を進めています。その中で、冬期は、アカエゾマツ造林地にて一部のアカエゾマツを伐採し、ハルニレやミズナラなどの広葉樹が育ちやすい場所をつくる作業を行いました。なお、これらの作業を実施するに当たり、ダイキン工業様のご寄附を活用し、大型チェーンソーや専用のヘルメットなどの装備一式を新調しました。



▲防風柵の補修作業を終えたダイキン工業の社員ボランティアの皆さん。



▲寄附で購入したウェダーを活用して川の観察会に参加する斜里町の子どもたち。

## 世界遺産の価値を守り、伝える事業

### 次世代を担う子供たちを対象とした環境教育活動への支援活動

地元の小中学校や高等学校、そして大学生の現地体験学習などを積極的に受け入れ、知床の自然の価値や「しれとこ100平方メートル運動」の理解と普及に努めました。2017年度は計13回、のべ385名の皆様に参加、聴講していただきました。

知床自然愛護少年団と知床キッズの活動費の一部を本事業の寄附金より支援しました。また、子供用のウェダー8着を購入し、地域の子供たちの環境教育活動を対象とした貸し出し業務を始めま

した。ウェダーの貸し出しは1件、2016年度から実施しているスノーシューの貸し出しは3件ありました。



▲スノーシューをはいて1泊2日の冬のキャンプに向かうウトロ自然愛護少年団。

### 知床来訪者へ自然保全や森林復元の取り組みを伝える活動

知床自然センター館内のレクチャースペースで来館者の方に「しれとこ100平方メートル運動」の歴史や活動を伝える取り組みを行いました。

2017年度は計57回のレクチャーを行い、629名の皆様に聴講していただきました。

### ヒグマと人の共存を手助けする活動

羅臼町で実施している本事業は、2011～2015年度の5年間に実施された第1期に続いて2016年度からは第2期を迎えています。第1期では、人が暮らしを営むエリアにヒグマが出てこないように、町内に電気柵を設置しました。第2期の2年目となった2017年度は、前年度に引き続き電気柵の維持管理に加え、ヒグマが身を隠して餌場や移動の場として好んで利用するような住宅地近くのアキタブ

キやイタドリ、クマイザサの藪を町内各所で刈り払いました。



▲人の背丈ほども伸びたアキタブキの刈り払いの様子。羅臼町岬町にて。

# 収益事業



▲人気のオリジナル商品「エコボトル」。

知床財団は、知床世界自然遺産地域の管理計画を立てる際に重要なデータとなる基礎的な調査、地元の小中学校への出前授業や観光客へのトークプログラムの提供、漁業や農業、観光業といった知床を代表する産業の持続的発展と自然保全の両

立を目指す取り組みなど、知床のために必要と思われる事業を独自で行っています。収益事業で得られた収益はそれら独自事業を行うための主な財源となっています。

## 販売・有償貸し出し業務

### 直営店の運営

知床自然センターおよび羅臼ビジターセンターでは、知床財団の直営店舗として知床の自然に関する書籍、散策や登山時に役立つアウトドアグッズ、知床財団の活動普及のためのオリジナルグッズなどを販売しました。また、電話やファックス、電子メールなどで注文を受ける通信販売も運営し、2017年度の売上はあわせて22,983,198円でした。

### オンラインショップの運営

オンラインショップ「コムヌプリ」の管理・運営を行い、2017年度は1,195,354円の売上がありました。このうちコムヌプリを通じた知床財団の個人賛助会員の入会は、57件（新規8件、更新48件、終身1件）ありました。

### オリジナル商品の開発

知床財団の知名度向上を目的に、ロゴマークを付した商品の開発を行いました。2017年度は知床かばんの新色を製作したほか、今治タオルを素材としたオリジナルガーゼハンカチの新色も製作、販売しました。また、株式会社フェニックス様とのコラボレーション商品、オリジナルTシャツは今年度7年目の製作となりました。同社からはTシャツの売上にあわせて370,000円のご寄附をいただきました。



▲アウトドアメーカー・フェニックスとのコラボレーションで販売したオリジナルTシャツ。



▲長靴や双眼鏡、ストックなどのレンタルサービスが充実している知床自然センター。



▲フードコンテナの貸し出し手続きの様子。ルサフィールドハウスにて。

## レンタルサービス

知床で登山やトレッキング、カヤックなどバックカントリーを利用する人たちにとってヒグマに出会う可能性を想定した準備は必須です。知床ではヒグマに万が一襲われた際の最終手段として使うヒグマ撃退スプレーやヒグマに人間の食べ物の味を覚えさせないためにヒグマが壊すことのできない携帯用食料収納庫（フードコンテナ）を携帯することが推奨されています。知床財団は知床自然センター、羅臼ビジターセンターおよびルサフィールドハウスで、ヒグマ撃退スプレーとフードコンテナの有料貸し出しを行っています。2017年度は、ヒグマ撃退スプレー560件、フードコンテナ39件を貸し出しました。貸し出しの際には、契約内容や使用方法、ヒグマとの危険な遭遇を回避する方法についてスライド画像を用いてレク

チャーを行いました。

遊歩道上のぬかるみや水たまりを避けて歩くと歩道脇の植生を傷めてしまうことになります。知床財団は観光客の皆様が足元に気にせず遊歩道上を歩いていただけるよう知床自然センターおよび羅臼ビジターセンターで長靴の有料貸し出しを行っています。2017年度、知床自然センターでは長靴2,608件、羅臼ビジターセンターでは57件の利用がありました。

また、観光客の皆様により深い自然体験をしていただくために知床自然センターでは双眼鏡とスノーシュー（冬期のみ）の有料貸し出しも行ってあります。双眼鏡は283件、スノーシューは1,006件の利用がありました。

## 研修実習受入業務

道内外の各種団体から依頼された講演、レクチャー、行政視察、執筆などに対応することにより、知床の価値を紹介、または、知床財団の持つ野生動物保護管理や調査研究、公園管理、環境教育のノウハウを広く提供・共有する活動を行いました。2017度は3,015,265円の収入がありました。



▲北見工業大学の実習対応中の職員。

# 収益事業

## 2017年度研修・講演・視察対応など受け入れ実績

	対象	内容
研 修 実 習	東京農業大学 生物産業学部 生物生産学科 植物資源保全学研究室	東農大寺澤研究室（3年生）実習
	JICA 独立行政法人国際協力機構（NPO法人エンヴィジョン環境保全事務所）	世界遺産地域およびその周辺でのヒグマの保護と利用の両立
	札幌科学技術専門学校 自然環境学科	知床実習
	公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会	ヒグマ対策研修
	前田一步財団	ヒグマ対処法研修
	国立大学法人北見工業大学	知床の自然環境や保護活動について
	東京農業大学 生物産業学部	体験実習「森の学校」
	酪農学園大学	野生動物保全技術実習
	幌別釣りを守る会	ヒグマスプレーの取り扱い使用方法
	網走中央小学校5年生	知床の自然保護の実態や課題について
	北海道大学 獣医学部	野生動物学習
	知床ネイチャーキャンパス（知床自然大学院大学設立財団）	知床で学ぼう 自然再生・自然復元
	亜細亜大学 原ゼミ知床実習	地域産業としてのエコツーリズムを考える、他
	JICA 独立行政法人 国際協力機構（公益財団法人 はまなす財団）	世界自然遺産のマネジメントならびにコントロールについて
講 演	標津建設業協会	技術研修会
	北方四島在住ロシア人訪問団の「住民交流会」	環境問題及び世界自然遺産の取り組みについて
	西武学園文理小学校4年生（株式会社JTB関東）	知床の自然について
	北海道立斜里高等学校（3年生）	知床自然概論（運動・シカ）
	神戸動植物環境専門学校	知床に暮らすヒグマとの共存、環境保全への取り組みについて
	電機連合	自然保護と産業振興について
	JICA研修（行政関係者意見交換会）	知床世界自然遺産地域の管理運営について
	個人（株式会社コックス・アンド・キングス・ジャパン）	知床の自然環境、動物と自然の原生形態、保護活動について
	日本クマネットワーク学生会	クマに関する安全対策講習会
	東京農業大学 生物産業学部 学術情報課程博物館情報学研究室	学芸員養成課程の授業
	北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル厚岸	森づくりワークキャンプの取り組みについて
	徳之島町役場	世界自然遺産シンポジウム
	NPO法人えんがあるジオ倶楽部	自然を生かした観光ツーリズムについて
	視 察	山梨県富士河口湖町議会
沖縄県北部市町村議長会		知床のヒグマ対策について
沖縄県文化観光スポーツ部（株式会社オリエンタルコンサルタンツ 沖縄支店）		知床財団の活動について
斜里町教振社会科部会実技研		100平方メートル運動地について

	対象	内容
視察	JICA 独立行政法人国際協力機構 (NPO法人エンヴィジョン環境保全事務所)	羅臼VC見学・映像鑑賞ほか
	外務省四島交流事業視察（株式会社ノマド）	野生生物専門家視察
	秋田県議会	知床財団の活動について
	白河市議会市民クラブ	世界遺産知床の保全と課題について
	NPO法人 時ノ寿の森クラブ	ナショナルトラスト制度先進地視察
	遠軽町商工観光課（株式会社日本旅行北海道）	冬の観光振興について
	NPO法人アースワーム	シャープシューティング視察
特別講師	てしかがえこまち推進協議会	ヒグマ講習会
	学生市民公開講座（北海道科学大学）	世界遺産知床・公開講座
	清里町教育委員会	フレベ&森づくりの道散策 オホーツクの魅力について
	北海道大学獣医学部	獣医学概論
	標津町中学生1・2年生	ヒグマ授業（子供樹木博士認定会）
	斜里町立斜里中学校2年生	キャリア学習
アドバイザー	北海道立標津高等学校	自然環境類型の課題研究への協力
	網走市 農林水産部 農林課 耕地林務係	囲いわな修理
	株式会社 ライヴ環境計画	国立公園における訪日外国人プロモーション手法検討

# 財団法人管理運営業務

## 財団法人管理運営業務

理事会は、第1回を5月に開催し、「平成28年度事業報告および決算報告、監査報告、定時評議員会の招集、賛助会員入会承認」について審議しました。第2回理事会（10月）では、「賛助会員入会承認」について審議しました。第3回理事会（12月）では、「賛助会員入会承認」について審議しました。第4回理事会（3月）では、「平成30年度事業計画（案）、収支予算（案）、資金調達（短期借入金）の限度額の設定、定款の一部改正、職員給与規程の一部改正、就業規則の一部改正、無期雇用職員就業規程の制定、賛助会員入会承認」について審議しました。第5回理事会（3月、決議の省略）では、「事務局長の選任」について審議しました。

定時評議員会（6月）では、「平成28年度決算報告及び会計監査報告」について審議しました。

また、代表理事と事務局の運営会議を9月と3月に開催しました。

### 役員

理事長	村田良介
副理事長	佐々木 泰 幹
理事	鈴木 完 也
//	蠣崎 優
//	工藤 勝利
//	塩川 裕子
//	八幡 雅人
監事	中川 元
//	高嶋 淳
評議員長	高橋 一三
評議員	吉野 弘志
//	遠山 和雄
//	金澤 裕司
//	吉野 英治
//	小川 雅勝
//	任田 勉

※2018年3月31日現在

# 受託事業一覧

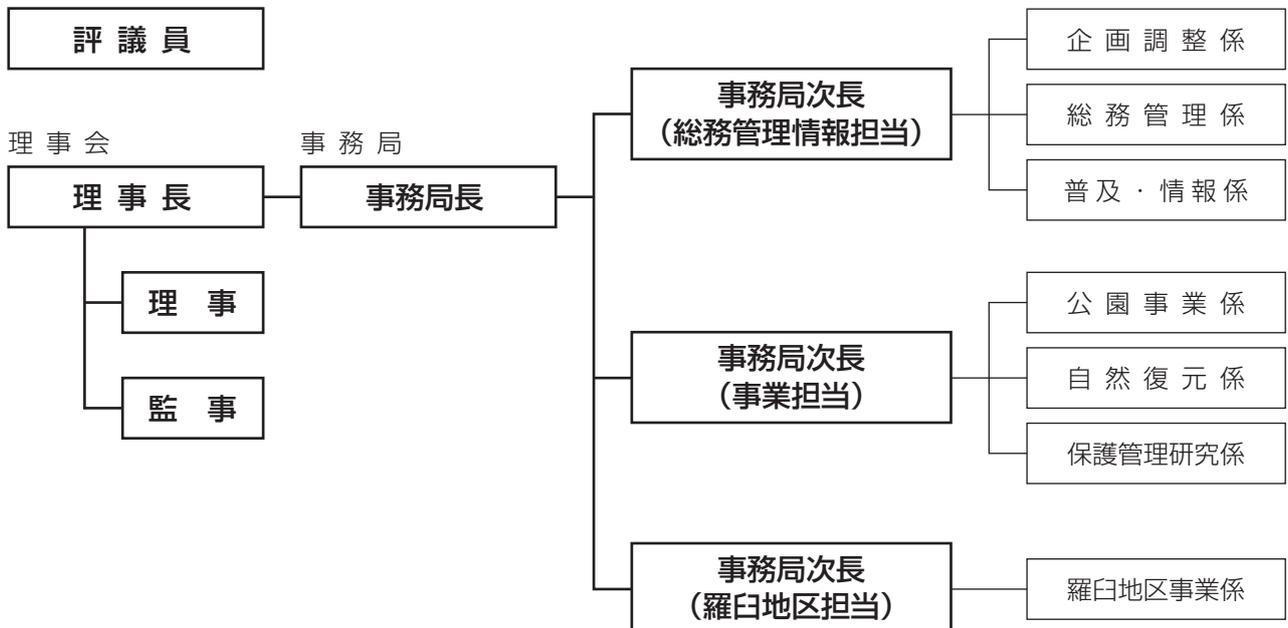
発注元	本文対象No.	事業名
斜里町	A 1	ヒグマ管理対策業務
	A 2	自然環境保護管理対策業務
	A 3	知床自然センター他指定管理業務
	A 4	知床五湖水道施設等管理業務
	A 5	しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務
羅臼町	B 1	ヒグマ管理対策業務
	B 2	野生鳥獣及び自然環境保護管理業務
	B 3	羅臼ビジターセンター運営業務
環境省	C 1	知床世界自然遺産地域における住民向け普及啓発講座開催補助業務
	C 2	知床半島ヒグマ管理計画に基づくゾーニング管理等推進業務
	C 3	知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務
	C 4	知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務
	C 5	知床生態系維持回復事業 エゾシカ航空カウント調査業務
	C 6	知床生態系維持回復事業ルシャ地区エゾシカ行動追跡調査業務
	C 7	知床世界自然遺産地域科学委員会等運営業務
	C 8	日露隣接地域生態系保全協力プログラム推進等業務
	C 9	羅臼ビジターセンター維持管理等業務
	C10	知床五湖フィールドハウス等運営業務
	C11	知床世界遺産ルサフィールドハウス管理運営業務
	C12	知床国立公園知床五湖等利用適正化検討業務
	C13	知床国立公園知床五湖における春期利用適正化実験運営業務
	C14	知床国立公園知床五湖における秋期利用適正化実験運営業務
	C15	知床半島先端部地区 適正利用の啓発及び利用のあり方検討業務
	C16	大雪高原温泉ヒグマ対処法普及啓発業務
林野庁	D 1	知床におけるエゾシカ捕獲等事業（巻狩）
	D 2	知床におけるエゾシカ捕獲等事業（囲いわななど）
	D 3	知床ルシャ川等におけるサケ類の遡上数等調査事業
北海道	E 1	サケ科魚類遡上状況調査業務
その他	F 1	知床生態系維持回復事業エゾシカ食害状況評価に関する植生調査事業 [株式会社さっぽろ自然調査館]
	F 2	エゾシカ生息状況調査 [網走市]
	F 3	知床半島浅海域生物相調査業務 [建設環境研究所]
	F 4	日本クマネットワークウェブページ管理業務 [JBN]
	F 5	知床五湖当日受付カウンター運営業務 [知床ガイド協議会]
	F 6	カムイワッカ地区における自動車利用適正化対策の実施に伴う現地管理連絡調整等業務 [知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会、斜里バス株式会社]

# 組 織 概 要

名 称	公益財団法人 知床財団 (2011年4月に名称変更 旧名称 財団法人 知床財団)
設 立	昭和63年 (1988年) 9月23日
設 立 者	斜里町・羅臼町
基本財産	4,500万円
所 在 地	〒099-4356 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地 知床自然センター
目 的	この法人は、知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発などの事業を行い、もって広く自然保護の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。
事 業	(1) 野生動植物の調査・研究 (2) 自然保護の普及啓発 (3) 自然保護に関する諸団体との提携 (4) 自然環境の保全管理及び公園施設などの管理運営受託業務 (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
職 員	35名

2018年3月末

評議員会



## 知床の価値ある自然を 私たちと一緒に守りませんか

<https://www.shiretoko.or.jp/supporter/>

### 「どなたでも知床の自然保護活動に貢献できます！」

知床の自然を未来へ遺していくためには、皆様の継続的な支援が不可欠です。  
皆様が知床の自然を思う気持ちを私たちに託して下さい。

#### 知床財団の賛助会員制度

会員になると、知床自然情報誌SEEDSや刊行物を定期的にお届けする他、知床自然センターの映像展示館の入館料免除など、各種特典があります。

個人年会員	5,000円/年	法人年会員	20,000円/年
個人終身会員	100,000円/終身	法人特別年会員	100,000円/年
寄付	おいくらからでも受け付けています。		

#### 賛助会員の入会・更新方法

知床財団 賛助会入会・寄附 <https://www.shiretoko.or.jp/supporter/kojin/>



①自動振替 〈クレジットカード決済〉	ホームページから直接お申し込みいただけます。 初回の決済を行った日から1年ごとに決済させていただきます。
②自動振替 〈銀行口座振替〉	ホームページにて「口座振替依頼書」にご入力後、依頼書を印刷し、記名・捺印の上、下記の宛先までご郵送ください。 【送付先】〒099-4356 斜里郡斜里町宇別531 公益財団法人 知床財団 企画総務係
③Loppi から お申し込み	全国のローソン・ミニストップに設置されているLoppi（店頭端末）から24時間365日お申し込みいただけます。
④郵便局から お申し込み	【口座番号】02750-2-37694 【加入者名】公益財団法人 知床財団
⑤知床の現地で お申し込み	知床自然センター、羅臼ビジターセンターのカウンターにて受け付けております。
⑥ネットショップから お申し込み	知床財団ネットショップ「コムヌプリ」にてクレジットカードでご入金いただくことができます。 ※自動振替にはなりません。 コムヌプリ <a href="http://shop.shiretoko.or.jp/">http://shop.shiretoko.or.jp/</a>



# REPORT 2017

2017年度活動報告書

表紙写真 ヒグマ講習会にてヒグマ撃退スプレーの使用法を指導する職員